

平成30年3月22日

平成29年度開かれた学校づくり委員会（第3回）報告

- 1 日時 平成30年1月22日（月）14：30－16：00
2 会場 授業公開 5限 13：35－14：25 各教室
委員会 14：30－16：00 会議室

3 参加者

(1) 参加者

委員長（PTA会長）	福島 宏史 様
大網白里市立大網中学校長	小野崎義一 様
大網白里市立大網小学校長	渡邊 稔典 様
大網白里市社会福祉協議会事務局長	片岡 浩之 様
株式会社食研 取締役管理部部長	佐藤 成昭 様
校長	

(2) 本校

総務・広報部長，教務主任，農場長，3学年主任，事務長 両教頭

4 次第

- (1) 委員長挨拶
(2) 校長挨拶
(3) 本校の教育活動紹介

ア 教育活動における取組

- (ア) 3学年末考査、1，2学年落ち着いて学校生活を送っている。修学旅行、体育祭、文化祭と行事も無事に終わった。
- (イ) ライオンズクラブ主催の国際交流事業としてマレーシアの高校生女子5名と本校生徒が、吹奏楽、書道、茶道などの体験をとおして交流活動を行い、グローバル教育の実践につながった。
- (ウ) 2学年を対象に、昨年度に引き続き淑徳大学コミュニティー政策学部矢尾板俊平准教授を講師に迎え、主権者教育を行った。今回は、グループワークや発表活動など生徒の主体的な学習活動を取り入れて、「各市町村の地域政策について考える」をテーマに実践した。学生の支援もあり、充実した教育が展開できた。
- (エ) 地方公務員が改正され人事評価制度が代わり、学校の教育力向上のため、職員は目標申告並びに職務能力発揮に関する自己評価を年間にわたって行い、校長が授業観察や面談等をとおして評価する制度になっている。現在、最終面談の期間となっている。職員の業績と能力を評価することで、資質向上も図っている。

イ 平成29年度ミニ集会について

「“大網魂”を持った生徒の育成について」をテーマに、文化祭終了後に実施

した。参加者15名と少なかったが、特色ある教育活動の推進に関する支援とともに、不登校や特別支援教育の対応に関する助言等をいただき、有意義な意見交換ができた。

(4) 協議

ア 平成29年度事業報告（案）及び会計報告（中間）（案）について

イ 学校関係者評価

自己評価、内部評価の結果についての説明

- (ア) 授業等の様子を見ると、昨年より学習環境の改善が見られ、概ねどの教室も生徒たちは落ち着いて学習していた。自己評価や生徒評価から、教科や専門の知識・技能の習得に関しては課題もあるが、先生方に根気強く指導していただきたい。
- (イ) 記述式では、どうしてもさまざまな意見が出てくる。すべてに対応することも難しいが、真摯な回答や対応をお願いしたい。
- (ウ) エアコンの件は PTA でもさまざまな意見がある。保護者の費用負担など含め、総合的に検討していく必要がある。トイレの洋式化についても、費用がかかることである。協力できる場所があれば協力したい。
- (エ) 挨拶の励行については、全校あげて職員も協力し、さらなる指導をして欲しい。以下はアンケートから
- (オ) 授業については、生徒と職員との意識の差が見られた。授業については、職員が努力することが必要である。
- (カ) 教室掲示は、担任によって差がある。
- (キ) 地域連携は素晴らしい成果が出ている。
- (ク) 施設・設備の評価では、「汚い」は見当たらない。整備が行き届いている。
- (ケ) 洋式トイレやエアコンについては、優先順位を決めてきめ細かく生徒や保護者に納得してもらえない。
- (コ) 学習指導は生徒の学習到達度に合わせた指導ができている。考査前の家庭学習時間が少ないのには驚いた。
- (ク) 生徒指導について、職員と生徒の評価に差がある。いじめ、セクハラ防止の著理組について職員は肯定的、生徒の評価は相談体制など課題が見られる。
- (ケ) 挨拶については、記述に昨年度もあった「挨拶をしない職員」がいるとあった。まずは「己を律する」でしょうか。
- (ケ) 進路指導は、たいへん評価が高い。しっかり対応されている。
- (コ) 地域住民の評価がよくなっている。文化祭時とはいえ、改善された点があるのではないか。
- (サ) グラフの様式の統一化、授業参観しやすい環境と雰囲気づくりをお願いしたい。